

パリのノートルダム教会を手本とし、ネオゴシック様式の二つの双塔を持つカトリックの聖堂で、正式名はセント・ジョセフ教会。

外観は南国の過度の湿気とホコリで黒ずみ、ノートルダム教会と比べると見劣りを感じたが、前面に配置された像は精巧な装飾で飾られ、垂直方向を強調した小窓が印象的であった。

内部の天井にはゴシック教会建築の特徴である尖頭アーチが連なっており、青をベースカラーとし、赤のラインで構成されているところがアジアの配色に思えた。扇風機がいくつか設置してあったので、少し興奮めしたもの、外観とは違って内部は荘厳なおもむきがあり、色とりどりの光を放つステンドグラスは小さいながらも美しさを感じ取れた。

街中でパリの地下鉄入口のギマール計画案を連想させるような形状の庇を見つけ、新鮮に思えた。

ハノイ市民劇場は大通りに面し、パリのオペラガルニエと同じような立地に建てられており、装飾はコリント式ではなく、イオニア式のオーダーが用いられていた。フランスほどの華やかさはないもののベトナムの歴史を伺えるものであった。

